学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵医広報

2019
WINTER
vol.245

特集1　地域に貢献し、信頼される
大学病院をめざして

特集2　2019年 年頭の言葉

地域に貢献し、信頼される大学病院をめざして

地域に根差した高度で先進的な大学病院

1972年4月、兵庫医科大学の開学に合わせ、附属病院として468床（一般342床、結核38床、精神88床）の規模で開院した兵庫医科大学病院。当時は、旧「新武庫川病院」の建物であった現在の2号館と、教育研究棟の場所に位置していた6号館に外来、病棟などが雑居する形で診療を開始しました。1973年7月には13階建ての1号館を完成させ、1,150床（一般1,024床、結核38床、精神88床）に拡充。その後も、病院機能の拡充のため、内科病棟を主とする10号館を2000年に建設し、地域に根差した先進的な大学病院となるべく、着実に歩みを進めてきました。

開院までの歩み

1965年頃
兵庫医科大学病院の前身である武庫川病院

地域に根差した精神科病院として診療を行い、「武庫川の赤屋根」という愛称で知られていました。

1968年頃
武庫川病院と新武庫川病院の施設の様子

総合病院としての基盤を着実に作っていきました。

1972年頃
1号館建設時の様子

大学病院の本館としての機能を整備しました。

「教育」「研究」「診療」の施設・設備の充実と高度化

兵庫医科大学の開学40周年を目前に控えた2011年、西宮キャンパスでは10号館を除く多くの建物が1972年の開学頃に建設されたままで、施設面での老朽化が課題となっていました。そこで、将来の「教育」「研究」「診療」施設・設備の充実と高度化を図り、2011年「西宮キャンパスグランドデザイン(整備計画将来構想)」を策定。これまでに、災害拠点病院としての最新設備を備えた急性医療総合センターや、大学施設の教育と研究機能を集約させた教育研究棟を建設し、西宮キャンパスのリニューアルを進めてきました。

そして、現在、今まで以上に患者さんに安心感や信頼感を持っていただき、快適な空間で医療を提供できるよう、2026年の開院に向けて新病院棟の建設を計画しています。

「西宮キャンパスグランドデザイン」に込められた兵庫医科大学西宮キャンパスのコンセプト

社会性
Creative Communication
豊かな教育・研究・診療を創造するコミュニケーション環境が充実し、地域とも交流するキャンパス

機能性
Trinity & Flexibility
教育・研究・診療が有機的に一体化（トリニティ）し、機能的でフレキシブルなキャンパス

快適性
Amenity & Convenience
患者・学生・教職員・同窓生（そして環境にも）それぞれに優しく快適、かつ利便性の高いキャンパス

安全性
Safety & Security
災害時対応も含め、安心・安全そして事業の継続が確保されたキャンパス

コンセプトに基づく新病院棟建設の基本方針

● 社会性
○地域中核病院としての病診・病病連携の更なる推進

● 機能性
○大学病院としての医療人育成と臨床研究機能の充実
○災害拠点病院としての救急・災害医療機能の確保

● 快適性
○患者さん・ご家族にやさしく地域住民に親しまれる環境の整備
○教職員が働きやすく能力を発揮できる職場環境の構築

● 安全性
○特定機能病院としての高度先進的かつ安全な医療の強化

地域に貢献し、信頼される大学病院をめざして

◉新病院棟建設整備スケジュール

2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
基本構想	基本計画	基本設計・実施設計			申請等	着工		竣工	開 院

※現時点の計画である為、変更になる場合があります。

［ 基本構想 ］
新病院計画に関する基本的な方針や機能概要を定めたもので、新病院の理念・方針、病床規模、診療機能、整備手法、投資概要を策定。

［ 基本計画 ］
基本構想に基づき、ハード的な要件（施設規模・構成、医療機器）やソフト的な要件（組織・人員体制）を整理し、具体的に計画図を策定。

［ 基本設計 ］
各部門の配置、大きさ、部屋数及び大型医療機器の配置を決定し、基本設計図を策定。

［ 実施設計］
基本設計に基づき、具体的に什器、機器、備品の配置を決定し、コンセント、LANの配置までを決定し、詳細設計図を策定。

安心・安全な病院棟を建設するために

まだ、始動したばかりの新病院建設計画。これからの西宮キャンパスの基盤となる新病院棟を建設するため、新病院の計画推進・運用・管理を審議する機関を学内に設置しました。今後は、学内各部門のヒアリングや、医療行政の動向を踏まえて、患者さんにとってより良い病院の実現をめざします。

◉新病院棟に関する将来構想図

※現時点の計画である為、変更になる場合があります。

患者さんに聞きました。「新病院に期待することは何ですか?」

●武田 三代子（たけだ みよこ）さん　70代
兵庫医科大学病院に約30年間お世話になり、医療職のみなさんにはとても良くしていただきました。「こんな病院になってほしい」といった要望は特にございませんが、これまでと変わらず、患者さんにとって、安心できて、快適な環境をご提供いただけると嬉しいです。

●河野 典子（こうの のりこ）さん　40代
やっぱり最先端の医療技術がこれまで以上に充実していて、診療面で安心して利用できると良いなと思います。また、通路の幅が今よりもう少し広い病院になると子ども連れにはありがたいです。
真旺（まお）くん　8歳
大きくてきれいな病院がいい！

●林さん（女性）　60代
1つの建物に受付や外来が集約していると移動が少なくて済むので嬉しいです。他には、エレベーターを待つことが多いのでもう少し数を増やしてほしいです。待合スペースのソファももう少しあると嬉しいです。

●匿名希望（ご夫婦）
外来の待ち時間緩和につながるような工夫があるとすごく嬉しいです。また、採尿する場所が限られているので、新しい病院棟ではもう少し増えるといいなと思います。
他には、呼び出し案内モニターの数を増やして診察室以外のところでも確認できるようにしてほしいです。

●匿名希望（男性）
相部屋の病室内で他の方の視線が気にならないような環境を整備してほしいです。例えば、ベッドが向かい合っているのではなく、ジグザグに配置されていて、視線を感じないような配置にするなど。また、診察室は、圧迫感を感じないような内装でリラックスできる環境だと嬉しいです。ユニバーサルデザインを取り入れて、誰もが利用しやすい病院になることを期待しています。

VOICE

新病院建設準備室 室長　**阪上 雅史**

2016年4月より新病院建設担当の法人理事として、新病院建設準備室や新病院建設委員会のメンバーとともに基本構想を策定し、現在、基本計画を練っています。新病院棟では、これまで以上に「安全で質の高い特定機能病院」「良き医療人を育成する大学病院」「災害・救急医療の災害拠点病院」「地域に貢献する地域中核病院」そして、「患者さんとご家族にやさしい病院」「教職員が働きやすい病院」をめざしております。「みんなで作ろう新病院～輝く未来のために～」の標語のもと、全教職員一丸となった「オール兵庫医大」で全力を尽くす所存です。

兵医広報

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
vol.245　2019 WINTER

CONTENTS

01 特集1
地域に貢献し、信頼される大学病院をめざして

06 特集2
2019年 年頭の言葉
～新たな年を迎えて～

09 NEWS & TOPICS
・「関西5医科大学 研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催
・「大学院 中間発表会ポスターセッション」を実施
・「ホームカミングデイ」「海鳧会（同窓会）懇親会」を開催
・兵庫医科大学生の研究論文が世界的に歴史ある
アメリカ解剖学会機関誌に掲載
・内視鏡手術支援ロボット ダヴィンチXi内覧会を開催
・「2018年度 日本孔子学院協議会」を開催
・列車事故を想定した実践的な救護訓練を実施
・兵庫から世界へ発信！ 全学横断プロジェクト研究を始動
・予後の良い人を見つける指標を発見
・神戸空港 航空機事故対策総合訓練に兵庫医療大学生が参加
・第21回近畿薬剤師学術大会「薬学トリビア2018」にて
薬学知識を発揮
・猛烈な強さの台風が各キャンパスを直撃し
法人全体で約1億5,000万円の被害
・第19回神戸港テロ対策合同実働訓練に兵庫医療大学生が参加
・兵庫医科大学後援会「秋期教員・保護者懇談会」を開催
・「2018年度 利益相反セミナー」を開催
・“妊娠”をテーマにがんを経験した人たちの将来を考える講演会を開催
・「ボーアイ4大学総合防災訓練」を実施
・兵庫医科大学病院とささやま医療センターで
「クリスマスコンサート」を開催

15 卒業生INTERVIEW
重度障がいを持つ子どもの発達をリハビリテーションでサポートしたい
医療福祉センターさくら 作業療法士　河 知美さん
（兵庫医療大学 2014年卒）

17 HYO-i LAB -研究紹介-
悪性中皮腫から免疫療法の増強まで免疫学から切り開く新たな癌治療
兵庫医療大学 薬学部 生体防御学 教授　田中 稔之

19 STUDENT INFORMATION
授業CLOSE UP
「基礎系講座配属」兵庫医科大学
「作業活動学実習Ⅱ」兵庫医療大学
課外活動REPORT
「第11回兵庫医療大学大学祭『海鳧祭』を開催」兵庫医療大学
「クラブ活動 競技大会結果報告」
「第47回兵庫医科大学大学祭『醫聖祭』を開催」兵庫医科大学

22 知ってる？学校法人 兵庫医科大学
場所を変えてなお来学者を見守る「創立者・森村 茂樹の胸像」

23 人事情報

24 表彰・受賞など／助成金状況／募金状況

25 主な行事予定（2～4月）

「働き方・学び方改革」の元年へ

学校法人兵庫医科大学 理事長　太城（たしろ） 力良（ちから）

明けましておめでとうございます。2019年の年頭にあたり、謹んで新年の寿ぎをお慶び申し上げます。

昨年4月、21世紀に即した医学・医療の持続的展開と、それらを担い得る高質な医療人の育成を使命とする医療総合大学を目指す道標として「第3次中期事業計画」をスタートさせました。中でも、2022年の開学50周年事業の中核をなすのが、開学以来最大の事業となる「新病院棟の建設（2025年度竣工予定）」です。本年は、その実現に向けて大きな改革の一歩を踏み出す年にせねばなりません。

しかし、我々を取り巻く環境を見てみると、医療や介護では、消費増税や介護人材の不足、国民医療費（2016年度42.1兆円）の抑制政策などの問題を抱えています。また、大学においても、今後少子化に伴い受験者数が減少するにもかかわらず政府が助成金の減額を模索するなど、非常に厳しい状況に置かれています。さらに、昨年に改正された労働時間法制が本年4月から施行されますので、医師以外の職種では労働時間の上限規制がより厳しくなり、結果として各現場で人手不足が生じます。

こうした状況の中、本年から新病院棟の基本設計を進めていくために、まずは健全な財政基盤の確立が不可欠です。また、本法人の教職員全員が自らの労働の質を高め、無理・無駄・ムラを省いた業務改善により生産性を向上することも欠かせません。公益財団法人日本生産性本部が毎年発表している「労働生産性の国際比較」によると、労働時間あたり、あるいは一人あたりのわが国の労働生産性はOECD加盟35カ国中、真ん中より下の20位で、ここ30年間変化していません。さらに、先進7カ国の中では、過去50年間も最下位が続いており、製造業の労働生産性は高いのに、医療や介護を含むサービス関連事業の労働生産性が低いのが日本の特徴です。すなわち、「日本人の労働の質は時間の割に中身が薄い」ということになります。

これは学習についても同様です。“Work is learning and learning is the work.”という言葉をご存じでしょうか？“work”とは時間や労力を使って行う肉体的・精神的活動（行動）のことで、“Work hard, play hard.”（＝よく学び、よく遊べ）と言うように、学習もworkの一つです。一方、“learn”とは勉強した結果に焦点を当てた言葉で「知恵を獲得すること」を意味し、“study”とは「勉強するプロセスそのもの」を意味します。すなわち、“Work is learning and learning is the work.”とは「仕事とは学び、学習とは仕事」ということであり、日々自分で考えて仕事や学習をすることが大切なのです。

生産性を最大化するには、長時間働くのではなく時間を決めて働くことが大切だと言われています。これは、教職員だけでなく学生にも言えることです。学習についても、「四当五落」といった睡眠時間を目安にする時代はもう終わりました。これからの時代は試験があるから勉強するのではなく、良医になるために学習していることを常に念頭に置き、勉強の質を第一に考え、一夜漬けではなく短い時間でも繰り返し集中して効率的に勉強することが国試合格の近道となるでしょう。

ワークライフバランスとは第三者から与えられるものではなく、自分で責任を持って取得するものです。私生活が充実すれば、仕事や学習の能力、成果は必然的に高まります。本法人では今後、健全な経営基盤のもとに業務プロセスを見直し、教職員には「仕事をする喜び」、学生には「学習する喜び」を存分に感じてもらえる環境づくりに邁進したいと考えています。そうすることで、日頃から本法人を応援してくださっている皆様にこれまでにない新しいアウトプット・成果を提示できればと思います。

元号が変わる本年、皆様も自らを省みて、新しい働き方、新しい人生設計を再設計する機会とされてみてはいかがでしょうか？　私も理事長就任を機に、新たな自分に挑戦する1年にしたいと思います。本年も、学校法人兵庫医科大学のさらなる発展に向けて、皆様方のご協力とご指導をよろしくお願い申し上げます。

昨年の変革を力に、さらなる飛躍を遂げる一年に

兵庫医科大学 学長　**野口　光一**

皆様、明けましておめでとうございます。2019年が皆様にとって、そして兵庫医科大学にとって素晴らしい1年となることを祈っております。

さて、昨年は兵庫医科大学にとって重要な変革の年でした。まずは4月、教育研究棟が全面使用開始となり、学生教育に関わるすべての施設や設備、セキュリティーなどが一新され、美しい教育環境の中で学生たちが生き生きと学べるようになりました。また10月には、本学に赴任して以来42年、学長・理事長として24年もの間兵庫医科大学を率い、まさに、現在の本学を作り上げてきた新家荘平先生が退任し、新たに太城理事長が就任しました。

こうした大きな変革を力に変え、本年は大学と してさらなる充実を成し遂げる1年にできればと考えております。特に医学教育の充実に関しては、多くの課題を克服すべく検討や改革を続けておりますが、来年の2020年度には医学教育分野別評価の受審を控えています。これは、国際基準に対応した医学教育を行っているかどうかについて評価されるもので、小手先の対応では済まない大学を挙げての事業となりますので、それに向けた大幅な教育システムの改革が必要です。

私が学長として最も重要な業務と認識しているのは“未来へ向けての改革”です。本学が高い評価を得る大学として存続するためには、財政面での裏付けとともに、教育・研究・診療のすべてのシステムを時代に対応して改革しなければなりません。それには、長年にわたる慣習や風土を変えていく勇気や努力、「兵庫医科大学を良くする」という構成員全体の意思が重要であり、何より皆様によるご支援が欠かせません。本年も何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

兵庫医療大学―次代へのバトンタッチ

兵庫医療大学 学長　**馬場　明道**

皆様、明けましておめでとうございます。旧年中は、兵庫医療大学に多大なるご指導、ご支援を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

本年は、平成が終わり、新たな年号が始まる大きな節目の年です。学校法人兵庫医科大学においても、昨年10月から新たに太城新理事長が着任し、新病院棟の建設に向けた第3次中期事業計画も本格的に始動しています。兵庫医療大学も、開学から12年間、順調に成長を続けることができ、医療総合大学としての社会的認知を確実なものとしています。

他方、大学を取り巻く社会状況には大変厳しいものがあります。今年度から始まる受験人口の減少、依然と続く競合する医療系学部・大学の増設、さらに、文部科学省による私立大学への自己改革の要請など、全ての課題に真剣に取り組まなければ、その前途は厳しいものと言わざるを得ません。兵庫医療大学は、すでにそれらの状況を見据えて、昨年に「HUHS vision 20」を立ち上げ、果敢に諸問題へ対応すべく活動を強化しています。また、「兵庫医療大学×兵庫医科大学」のスケールメリットを活かした、独自の医療人育成教育を深化させ、揺るぎないものにすべく大学一丸となって取り組んでいます。

兵庫医療大学は、新家前理事長のもと、初代学長の松田先生、そして第2代学長の私の時代を含め、12年間の歴史を刻むことができました。私事になりますが、私は今年3月末で任期を満了し、学長職を退任いたします。これまでの12年間、皆様よりいただきました温かいご支援とご鞭撻に重ねてお礼申し上げます。それと同時に、兵庫医療大学への今後のご支援のほどお願い申し上げます。

No Change, No Future!

兵庫医科大学病院 病院長　**難波　光義**

明けましておめでとうございます。昨年10月、本法人において太城新理事長が就任してから初めての年を迎えることもあり、まさに“あらたまの年”と言う気分がしております。春には新天皇のご即位と新元号への変更を控えている2019年、皆様方も新年を一際心改まる気分でお迎えになったことと思います。そうした年頭にあたり、表題の言葉は皆様方にとっても、本法人の教職員にとっても、「“変革”に向かって一歩を踏み出そう」という意気込みを表すのにピッタリではないかと思います。

さて、本院のハード面での変革として、2011年に策定した「西宮キャンパスグランドデザイン」の最終ステージとなる「新病院棟建設プロジェクト」がいよいよ詰めの段階に達し、昨年末には「新病院建設準備室」を設置しました。これまで、阪神圏域をはじめ全国におよぶ多方面の切り口からの予備調査や、院内スタッフによるワーキングなどを並行して行ってきましたが、これらを土台として、いよいよ本年からは準備室を中心に具体的な建築内容の検討を始めます。

一方、ソフト面での変革として、2019年は昨年来医療界全体で喫緊の課題とされている「働き方改革」に着手せねばならない元年と言えます。医育機関病院として若手医師（医療者）の教育が萎縮することは絶対に許されませんし、特定機能病院としても社会の大きな期待に応えていかねばなりませんので、他の医育機関病院や特定機能病院と十分な情報交換や機能連携を行いながら、最善の道を模索していく必要があると考えています。

わが国にとっても本法人にとっても、戦後最大の曲がり角に立っている本年。Change（変革）を怖れていては“No Future !”となってしまいますので、病院全教職員の力を結集してハードとソフトの両面から改革に着手してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

篠山キャンパスのブランド戦略

ささやま医療センター 病院長　**片山　覚**

新年あけましておめでとうございます。

今年、篠山市は「丹波篠山市」になります。丹波黒枝豆や丹波栗に加えて、深い霧が美味を生む霧芋（丹波山の芋）は丹波篠山のブランドですが、隣の丹波市ブランドと誤解されることが多くなっています。デカンショ節の歌詞にある「丹波篠山」は、本来篠山市だけを指す呼称ですが、公共放送の天気予報でも丹波市と篠山市を合わせて「丹波・篠山」と表記するなど、混乱が広がってきたことが市名変更の理由です。篠山市民は、市名を丹波篠山市とすることで、ブランドイメージをより強力に、誤解なく発信することを選択しました。

一方、本院は高度で専門的な医療の提供を軸とし、機能を制限した地域のミニ大学病院としてブランディングを進めてきましたが、昨年より篠山モデルを提唱し、治し支える医療（生活モデルの医療）を展開するために「プライマリ・ケアの大学病院」への転換を進めています。医療制度改革により、入院機能は「急性期」「回復期」「慢性期」などに分類され、外来機能は「プライマリ・ケア」「ホスピタル・ケア」に分けられつつあります。プライマリ・ケアの担い手となるのは、日本医師会のかかりつけ医と新専門医制度の総合診療専門医です。プライマリ・ケアの5つの特徴は「近接性」「包括性」「協調性」「継続性」「責任性」であり、困った時に診てもらえるかかりやすさと、日常的な幅広い健康問題に地域のネットワークで対応し、責任を持って継続することが重要になります。その点、本院は紹介状なしで受診できる200床未満の病院ですので、実践して学ぶには最適の場所です。

こうしたプライマリ・ケアをブランドの柱として、包括的な介護予防やアドバンスド・ケア・プラニングを市民とともに進め、一人ひとりがその人らしく生き、逝ける地域創りを進めてまいります。

医科大 イベント

「関西5医科大学 研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催

懇親会で学生と教員が交流

研究成果をポスターセッションで発表

参加者全員での集合写真

2018年9月8日と9日の2日間、ホテルクラシア大阪ベイにて「関西5医科大学※研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催し、各大学の研究医に関わる教員、学生計63名が参加しました。

2日間の合宿では、学生がそれまでの研究成果について発表を行ったほか、教員と学生がグループになり「臨床と医学研究の両立」をテーマにディスカッションを行いました。また、ポスターセッションやフリートーク、懇親会をとおして他大学の学生や教員と交流を深め、医学研究への意欲を高める良い機会となりました。

※兵庫医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学

医科大 イベント

～研究分野の垣根を越えて活発な議論を展開～

「大学院 中間発表会ポスターセッション」を実施

2018年10月4日、研究の促進と展開および、交流を図ることを目的に「大学院 中間発表会ポスターセッション」を実施しました。大学院3年次生46名が、これまでの研究成果や学位論文の準備状況等を英語でポスターにまとめ、発表しました。発表会には計205名が参加し、教育研究棟の会場は、学会さながらのアカデミックな雰囲気の中、研究分野の垣根を越えて活発な議論が繰り広げられました。

今回の中間発表会は、大学院生が研究進捗を振り返るとても貴重な時間となり、個々の研究について互いに理解を深める良い交流の場となりました。

ポスターセッション会場の様子

研究内容を説明する大学院生

医療大 イベント

～兵庫医療大学卒業生が母校に集う～

「ホームカミングデイ」「海鳧会(同窓会)懇親会」を開催

「ホームカミングデイ」で挨拶する馬場学長

当時を振り返る教員と卒業生

「海鳧会(同窓会)懇親会」を開催

2018年10月7日、大学祭の開催に併せて兵庫医療大学の卒業生を対象に「ホームカミングデイ」および「海鳧会(同窓会)懇親会」を開催しました。兵庫医療大学レストランで開催された「ホームカミングデイ」には、卒業生・教職員合わせて67名が参加。その後、ポートピアホテルに会場を移し、海鳧会(同窓会)懇親会が行われました。今回で海鳧会が発足して5回目の節目となる懇親会となり、澤田会長からは、同窓会としての実質的な活動を今後はもっと活発化させ、新たに「キャリア支援の会」を公認団体として位置づけ、そこで卒業生並びに在学生へのサポートを推進していきたい旨の挨拶があり、集まった卒業生に協力を呼びかけていました。

医科大 研究・発表

兵庫医科大学生の研究論文が世界的に歴史あるアメリカ解剖学会機関誌に掲載

5年次 森下冴子さん(前列右)、5年次 蔡佳穎さん(前列左)
八木主任教授(後列)

図 大腿動脈周囲にあるパチニ小体の存在部位

医学部5年次の森下冴子さん・蔡佳穎さんが筆頭著者として執筆した英語論文が、2018年10月8日、世界的に歴史あるアメリカ解剖学会機関誌「The Anatomical Record」に掲載されました。森下さんと蔡さんは、2年次の「基礎系講座配属(研究者としての手ほどき)」という基礎医学の理解を深めることを目的とするカリキュラムで解剖学細胞生物部門に4週間配属され、八木主任教授の指導のもと研究を行いました。さらに、「基礎系講座配属」のカリキュラム終了後も授業の合間を縫い、4年次の夏頃まで継続して研究を行い今回の論文執筆に至りました。研究テーマは、「大腿動脈の血管鞘におけるパチニ小体の組織分布」。主に皮膚に見られ振動を感知する機械受容器の1つであるパチニ小体が大腿動脈のどの位置に分布し、どれくらいの頻度で存在するのかを、解剖体より採取した大腿動脈を厚さ7μmの切片にし、染色・観察する作業を繰り返し、検討しました。その結果、大腿動脈の組織中にパチニ小体の存在を9個確認し、そのうちの7つが大腿動脈および静脈外側の共通接線に隣接して位置することを見出しました。

大学病院 イベント

～地域医療機関との連携を強化～

内視鏡手術支援ロボット ダヴィンチXi内覧会を開催

実際に体験していただいたダヴィンチXi

2018年10月20日、兵庫医科大学病院にて2018年8月に導入した内視鏡手術支援ロボットの最新モデルとなる「ダヴィンチXi サージカルシステム」の内覧会を日頃連携いただいている医療機関の先生方を対象に開催しました。内覧会では、泌尿器科の医師より、ダヴィンチ手術の治療成績などの説明に加え、実際にダヴィンチXiの操作を体験できる時間を設けました。操作を体験した参加者からは、その操作性に驚きの声もあがり、満足いただけた様子でした。

学校法人 イベント

～国内の孔子学院と連携強化を図る～

「2018年度 日本孔子学院協議会」を開催

2018年10月20日、国内の孔子学院・課堂・学堂が一堂に会し日本孔子学院協議会を開催しました。協議会には中国孔子学院本部から5名が来日し、中国大使館から2名、領事館から2名、孔子学院関係者60名の合計69名が出席し、孔子学院が進めるデジタル化の推進や将来像をテーマに意見交換を行いました。

また、新しい教育手段の模索に関する協議では、インターネット放送を取り入れた際の失敗談を共有。その他にも、孔子学院同士の連携強化に関する協議では、合同イベント実施案を検討するなど、活発な意見交換が行われ有意義な協議会となりました。

学校法人 10/2

2018年度 学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター認定看護師教育課程(手術看護分野)の入学式を執り行いました。

医科大 10/16

「平成30年度兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭」を挙行し、ご遺族の方々をはじめ、学生や教職員など約400名が参列しました。

ささやま 10/29

ささやま医療センターにて地域住民を対象とした「ロコモ講座」を開催。兵庫医科大学生によるレクチャーのほか、ロコモ測定を実施し、参加された方の足腰の体力チェックを行いました。

学校法人 10/29

社会保険労務士を講師に迎え「働き方改革講演会」を開催。参加した一般教職員は、残業時間の上限規制や年次有給休暇の取得義務について理解を深めました。

ささやま
イベント

～過去最大規模の乗客救護訓練～

列車事故を想定した実践的な救護訓練を実施

2018年10月29日、JR篠山口駅にてJR西日本・篠山市役所・篠山警察署・篠山市消防本部、柏原病院と合同で「列車事故を想定した実践的な救護訓練」を行いました。

訓練当日は、「踏切内で立ち往生していた大型トラックに快速電車が衝突し、負傷した多数の乗客が列車内に閉じ込められている」という想定のもと、乗務員などによる負傷者の誘導訓練や、救出・救護訓練、救護所設置およびトリアージ訓練などを実施。事故発生の際に、各機関が協力しながら迅速かつ的確な初動対応を行えるよう、課題などを確認し合いました。

トリアージ訓練の様子

各機関と連携して行った救護活動

医療大
イベント

～医療職者の救護活動を間近に～

神戸空港 航空機事故対策総合訓練に兵庫医療大学生が参加

2018年10月30日、神戸空港メンテナンスエリアにて、航空機事故対策総合訓練が実施され、兵庫医療大学と神戸学院大学から学生19名が参加しました。訓練は、警察や消防局、スカイマーク株式会社の協力のもと、実際の飛行機を使った本番さながらの緊張感で行われ、学生たちは、レスキューシューター(模擬脱出シューター)からの脱出や、トリアージ訓練での負傷者役(無傷、軽傷、中等傷、重症)を務めました。参加した学生たちにとっては、緊急時の医療職者が行う救護活動を間近で見る良い機会となりました。

レスキューシューターから脱出訓練

負傷者役でトリアージ訓練に参加

救護活動の様子

医科大
研究・発表

～脳内ストレスを暴き、病気を防げ！～

兵庫から世界へ発信！ 全学横断プロジェクト研究を始動

Hyogo Innovative Challenge

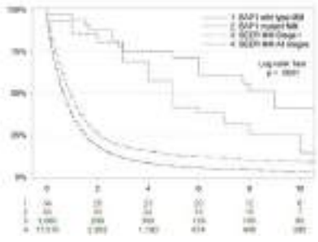
兵庫医科大学は、大学の看板となりうる全学横断的な研究プロジェクト「Hyogo Innovative Challenge」を始動します。これは、兵庫医科大学の研究を起点に、兵庫県の医療・産業に貢献し、ひいては新たに得た知見を世界へ発信するという目的で実施するプロジェクト研究です。研究テーマは、「脳内ストレス顕在化の評価を通じた疾病予防戦略と実装」。基礎医学、臨床医学など学内の複数の専門分野が協力して、「脳内のストレスと各種疾患病態との関連性」を解明し、病気の予防・治療策を見出すことをめざします。なお、学内公募した共同研究者は現在選考中であり、2019年2月までにプロジェクト研究チームを発足し、キックオフする予定です。

▶詳細は医科大WEBへ

医科大
研究・発表

～遺伝学 吉川講師による悪性中皮腫 遺伝子研究～

予後の良い人を見つける指標を発見



兵庫医科大学 遺伝学講座 吉川 良恵講師らと、ハワイ大学がんセンター S.Pastorino助教・M.Carbone教授・江見 充客員教授、ニューヨーク大学HI.Pass教授らの研究グループは、分子遺伝子学により、予後の良い悪性中皮腫患者を識別する指標を発見しました。悪性中皮腫は、診断を受けてから1年以上生存することが難しいと言われる非常に予後が悪い腫瘍ですが、一方で10年以上生存される患者さんも一定数います。本研究の結果より、50歳未満で悪性中皮腫を発症、または患者さんご本人もしくはご家族に複数の腫瘍発症歴がある方は、比較的予後が良い可能性が高いということが分かりました。また、これらの患者さんは、アスベストの曝露による発症ではなく、がん関連遺伝子の変異による発症の可能性が高いことも判明しています。本研究成果に関する論文は、日本時間10月31日に、国際科学雑誌「Journal of Clinical Oncology」の電子版に掲載されました。

▶詳細は医科大WEBへ

医療大
お知らせ

～兵庫医療大学 薬学部生が優勝～

第21回近畿薬剤師学術大会「薬学トリビア2018」にて薬学知識を発揮

2018年11月3日、びわ湖大津プリンスホテルにて第21回近畿薬剤師学術大会が行われ、会の中で開催された「薬学生シンポジウム『薬学トリビア2018』」にて本学チームとして出場した大原隆司さん(薬学部6年次生)、中澤公揮さん(薬学部5年次生)、藤原正規さん(薬学部4年次生)が優勝しました。

イベントには、近畿地区9大学から2～3名の代表者が、薬学に関するクイズ(薬学の歴史や日本における薬学教育の歩みなど)に参加。日頃の成果を発揮するとともに、各大学の学生が相互に学びを深める機会となりました。

受賞の様子

記念の盾

学校法人
お知らせ

猛烈な強さの台風が各キャンパスを直撃し法人全体で約1億5,000万円の被害

昨年、非常に猛烈な台風が近畿地方を襲ったことにより、各キャンパスで大きな被害が発生しました。2018年8月の台風20号の際は、神戸キャンパス P棟図書館の屋根パネルの一部が飛散し、雨水が浸入することで天井や床が汚損(※被害総額1億円弱)。また、翌9月にも再び台風21号が直撃し、西宮キャンパスの各所で大小40数箇所が破損しました(※被害総額6,000万円弱)。

それぞれ、被害発生直後に応急処置を施し、2018年12月末時点でほとんどの修繕を完了しました。しかし、大規模な工事が必要な箇所については未着手となっている所もありますので、今後も早期復旧をめざして取り組んでいきます。

西宮キャンパスのアーチェリー場も大きな損害

神戸キャンパスのP棟屋根仮復旧工事の模様

医療大 11/3、12/1、22

兵庫医療大学にて地域交流イベント「リラクセーションを取り入れた健やかな生活を目指して」を開催。看護学部生によるハンドマッサージやミニレクチャーなどが行われました。

大学病院 11/5～11/19

兵庫医科大学病院にて、篠山ボランティアグループによる「水墨画展」を開催。作品をご覧になった患者さんは、和やかなひとときを過ごされていました。

大学病院 11/10

2019年度入職内定者を対象に、ホテルヒューイット甲子園にて「看護職員内定者交流会」を開催し、内定者131名の参加がありました。

学校法人 11/15

個人情報保護に対する意識を高めることを目的に、兵庫医科大学にて「個人情報保護に関する講演会」を開催。学内2部署の取り組みを好事例として紹介しました。

医療大 イベント

～テロを未然に防ぐ訓練に協力～

第19回神戸港テロ対策合同実働訓練に兵庫医療大学生が参加

訓練はしおさい公園で実施

クルーズ客船乗客役で訓練に参加

テロリストが船内に逃亡

2018年11月9日、ポーアイしおさい公園および周辺海域にて、第19回神戸港テロ対策合同実働訓練が行われ、兵庫医療大学と神戸学院大学の学生が計17名参加しました。

「入国審査を実施していたところ、乗客がテロリストであることが判明。ナイフを振り回し暴れ出したことから、入管職員および税関職員によって避難誘導を受け避難する」という設定のもと、参加学生たちは、神戸港に入港したクルーズ客船の乗客役を務め、日々の安全対策の重要性について再確認しました。

医科大 イベント

兵庫医科大学後援会「秋期教員・保護者懇談会」を開催

懇談会の様子

懇親会の様子

2018年11月17日、兵庫医科大学後援会「秋期教員・保護者懇談会」が開催され、当日は156名の保護者にお集まりいただきました。

懇談会では、太城理事長より「学校法人兵庫医科大学の経営と目指すもの」、鈴木副学長より「今後の医学教育改革の方向と本学の対応」、また、整形外科学 橘講師より「脊椎外科医の診断力－慢性疼痛の鑑別と教育への反映－」と題して講演が行われました。

懇談会後に行われた懇親会では保護者と教員との交流が深まり、盛会のうちに終了しました。

医科大 イベント

～ガイドラインに基づいた適切な医学研究へ～

「2018年度 利益相反セミナー」を開催

臨床研究法の重要なポイントを説明

臨床研究法利益相反管理基準について説明

2018年11月27日、兵庫医科大学にて「2018年度 利益相反セミナー」を開催しました。

今回は「医学研究に求められる利益相反への対応～臨床研究法における利益相反管理の在り方を踏まえて～」と題し、利益相反の基本概念、近年の利益相反管理の要請の高まりとともに、今年度施行された臨床研究法における利益相反管理への対応について、同法における利益相反管理ガイダンスの策定にも携われた東京医科歯科大学 飯田 香織里教授を講師としてお招きし、詳細にご講演いただきました。当日は、学外研究機関、企業の方々含め多数の参加がありました。

大学病院 12/1

近隣施設の介護士やヘルパー、ケアマネージャーなどを対象にケーススタディを中心とした起居動作や移乗動作の実技を伴う研修会を実施しました。

医科大 12/3

兵庫医科大学にて「第46回実験動物慰霊祭」を挙行し、動物実験に携わる教職員および学生が参列。実験動物の御霊に哀悼の意を捧げました。

大学病院 イベント

“妊娠”をテーマにがんを経験した人たちの将来を考える講演会を開催

がん遺伝子検査について説明

妊娠のためにできることを紹介

2018年12月1日、がん患者さんやそのご家族、医療従事者などを対象に「がんサバイバーシップ『将来 妊娠できることを保つために』」講演会を開催しました。がんサバイバーシップとは、がんを経験した人が抱えるさまざまな課題を本人だけでなく、その周囲の人たちや社会全体が協力して乗り越えていくという考えのこと。当日は、がん経験者の妊娠をテーマに産科婦人科の専門医をはじめ、がん看護専門看護師や乳がん看護認定看護師がそれぞれの立場から事例を交えて講演し、参加された方々とがんを経験した人が抱える課題について考えました。

医療大 イベント

～災害時に備えて大学間で連携～

「ポーアイ4大学総合防災訓練」を実施

地震体験車「ゆれるん」の体験

心肺蘇生・AEDの体験

実際の火災時を想定した煙道体験

2018年12月7日、神戸学院大学にて「ポーアイ４大学総合防災訓練」（ポーアイ4大学連携推進センター主催）が実施され、兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学の学生、教職員や、地域住民の方々が参加しました。訓練は、神戸市消防局水上消防署と兵庫県神戸水上警察署の協力のもと、消火器使用体験、煙道体験、炊き出し訓練、地震体験車「ゆれるん」体験、地震・火災避難訓練などが行われ、兵庫医療大学は心肺蘇生・AED使用体験ブースを設置。参加した学生や教職員にとっては、災害時に役立つ情報を知り、今後の災害の備えを再確認する良い機会となりました。

大学病院 ささやま イベント

～患者さんとご家族に癒しの音楽を～

兵庫医科大学病院とささやま医療センターで「クリスマスコンサート」を開催

兵庫医科大学病院にて

ささやま医療センターにて

2018年12月15日、兵庫医科大学病院1号館1階のロビーにて、毎年恒例の「クリスマスコンサート」を開催しました。今年度は、例年と少し趣向を変えて、兵庫医療大学で医療を学ぶJAZZバンド部の学生たちによる演奏が行われました。

また、兵庫医科大学ささやま医療センターでは、12月21日にクリスマスコンサートを実施。両病院とも、終始和やかな雰囲気に包まれ、参加された患者さんやそのご家族は、素敵な音色にうっとりと耳を傾け、癒しのひと時を楽しまれました。

学校法人 12/12

円滑な人間関係を築くために必要な「おもてなしの心」を学び、コミュニケーションスキルを向上させるために「接遇・マナー研修」を開催しました。

医療大 12/16

兵庫医療大学にて、一般入試に焦点を当てた入試対策講座を開催。高校生、保護者の方など併せて413名の方にご参加いただきました。